

安永 裕幸

経済発展の礎「教育」を考える

今回は、教育について考えてみたい。SDGsのゴール4は「質の高い教育をみんなに」である。良く知られているように、日本はこの点については世界でも高い評価を得ている。

SDGsの具体的な目標では、「全ての子供が男女の区別なく、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了」できるように、「全ての人々が男女の区別なく、手の届く質の高い技術教育・職業教育及び大学を含む高等教育への平等なアクセスを得られるよ

未来を 変える

うに」「全ての若者及び大多数の成人が、読み書き能力及び基本的計算能力を身に付けられるように」等と規定されている。

よく「日本には江戸時代

から(特に商工業の盛んな都市部においては)寺子屋があり、いわゆる読み書き・算盤という基礎的教育が武士階級以外の子女に対しても相当程度普及し、世界でも高い識字率を誇った。さらに明治政府は学制を敷いた後、暫定的に既存の寺子屋施設や師匠を小学校校舎や教員として採用し、初

等教育の普及を加速した」と言われる。「ユネスコ世界寺子屋運動(World Terakoya Movement)」というものもあるようだ。また、日本の特徴として、中等教育における数学教育の充実が挙げられることが多い。私も、米留学時代(1991-93年)、こういう経験をした。まず、一般的に米国の大学院に入るには、TOEFLの語学試験以外にGMATとかGREという共通テストを受ける必要がある。当時、GREは英語・数学・論理の3科目から構成されており(理系の大学院の場合、これに専門科目が加わる)、英語はハッキリ言って難し過ぎて日本人には回



から(特に商工業の盛んな都市部においては)寺子屋があり、いわゆる読み書き・算盤という基礎的教育が武士階級以外の子女に対しても相当程度普及し、世界でも高い識字率を誇った。さらに明治政府は学制を敷いた後、暫定的に既存の寺子屋施設や師匠を小学校校舎や教員として採用し、初等教育の普及を加速した」と言われる。「ユネスコ世界寺子屋運動(World Terakoya Movement)」というものもあるようだ。また、日本の特徴として、中等教育における数学教育の充実が挙げられることが多い。私も、米留学時代(1991-93年)、こういう経験をした。まず、一般的に米国の大学院に入るには、TOEFLの語学試験以外にGMATとかGREという共通テストを受ける必要がある。当時、GREは英語・数学・論理の3科目から構成されており(理系の大学院の場合、これに専門科目が加わる)、英語はハッキリ言って難し過ぎて日本人には回

途上国の教育充実に日本の経験を



カンボジアのフロンペンにあるカンボジア子供基金の教室。学生たちはセンターで1日3食を受け取る(ブルームバーグ)

答不能、数学は逆に「二等辺三角形」「比例」等の概念を表す英語を知っていれば中学生でも満点が取れ、最後の論理はクイズみたいなので質問の意味が分かれば回答可能だが時間の制約が厳しい、という極端な構成になっていた。日本人留学生の場合、ほとんど差が付かなかつたのではないかと思う。

また、大学の図書館で勉強していると、ラテン系の女子学生が私目掛けてズンズンと近づいてくる。何かいいことでもあるのかと妙

な期待を抱いていると「お前は日本人か? 日本人ならこれ(日本だと高校の数学Iレベルの三角関数の問題と記憶している)、分かるだろう、教えてくれ」と質問してきたのが学部1年生のベネズエラ人留学生。雑駁に言えば、米国でも理系の大学3年生になるとほぼ日本の高校卒業相当に達する感じである。同様の経験もされた方も多と思う。しかしながら、こうした数学教育の優越は、先人たちが構築してくれた教育シ

ステムのおかげである。我々はその恩恵を被っているに過ぎない。逆に、日本人の英語力は、アジアの中でも低位であるが、これは教育システムの問題というより、日本語の構造・体系が欧州系言語等と大きく異なることに拠るのではないかと思われる(思いたい)。が、開発途上国では、「学校がない」「教材がない」「先生がいない」という根本的な欠落があり、状況は深刻だ。彼らが、まず基礎的な初等教育を受けられるようなシステムが必要だ。もちろん、「文化的な最低限の生活」を送るには水・食料・エネルギー等も欠かせない。が、それらと併行して、教育制度の充実に日本経済発展の礎となつた、ということの世界にもつと広め、教育の充実にもなにかの貢献をしたい。それが産業開発の大きな原動力にもなると考えるからだ。

世界の産業開発の原動力に

やすなが・ゆうこう 86年(昭61)東大院工学系研究科修士課程修了、同年通商産業省(現経済産業省)入省。新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)企画調整部総括課長、経産省産業技術環境局研究開発課長、同原子力安全・保安院ガス安全課長、資源エネルギー庁資源・燃料部鉱物資源課長を歴任。13年大臣官房審議官、15年産業技術総合研究所理事・企画本部長などを経て、17年から現職。06年博士(工学)。